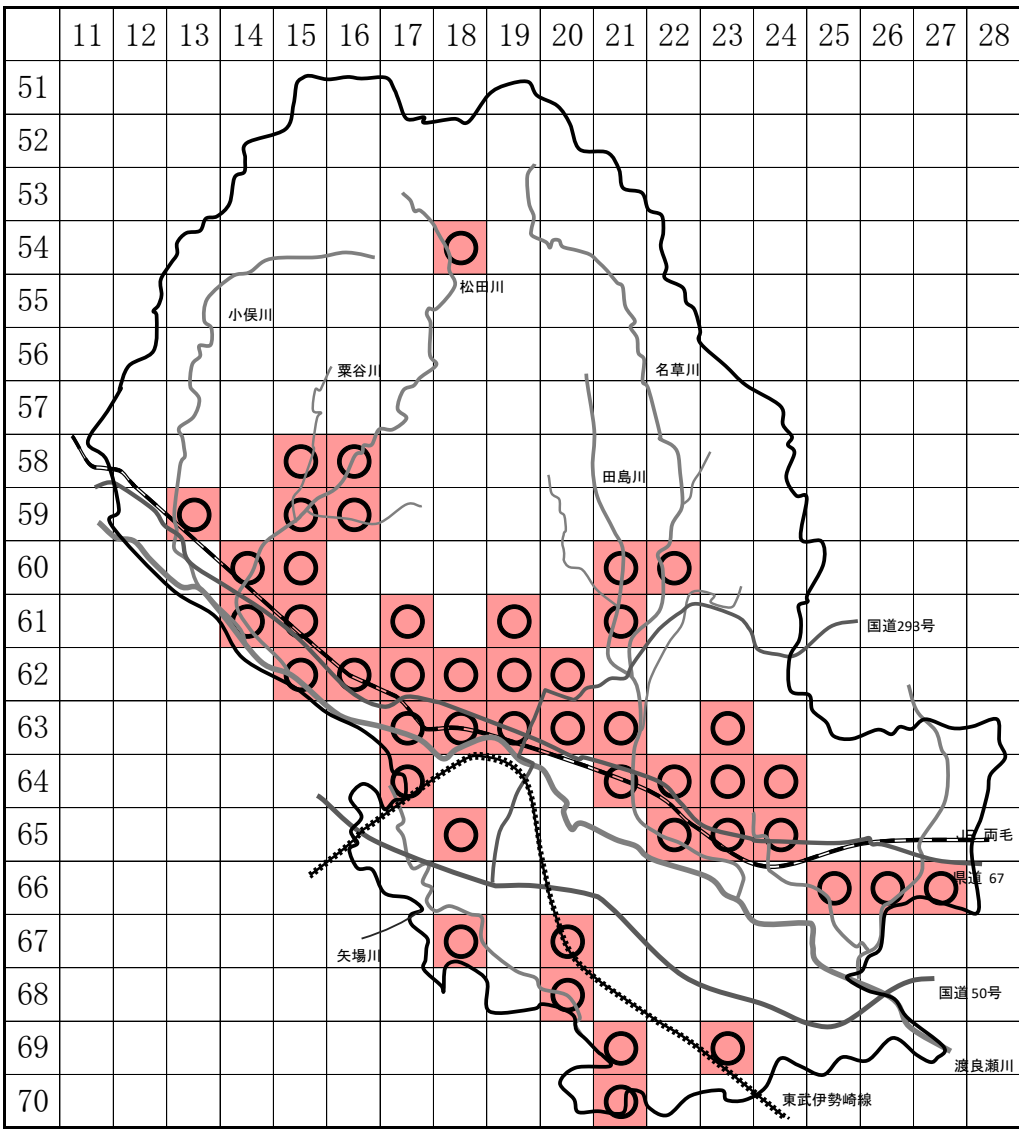
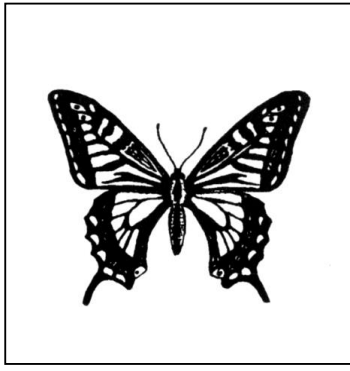


<h1 style="font-size: 2em;">アゲハ</h1> <p style="font-size: 1.5em;">ナミアゲハ</p>	確認数： 45 メッシュ
	報告数： 45 メッシュ
	2021年度 53/53 2020年度 48/52

※過年度 確認数/報告数



ナミアゲハともいわれているアゲハで、春型と夏型がある。春型は小さく夏型は大きい。幼虫はサンショウ・カラタチ・ミカンなどの木で成長する。このチョウによく似ているものにキアゲハがいるが、これは濃い黄色をしている。どちらもごくふつうに見られるチョウである。

観察適期
3月～10月

- 生き物が見つかったメッシュ ○ 印で表示
- 生き物が見つからなかったメッシュ × 印で表示

調査結果

昨年よりもやや少なめですが、これまで同様市内各地で確認されました。山間部では植物遷移の初期段階（先駆植物）に出現する主要な食草の一つであるカラスザンショウと好んで蜜を吸いに訪れるクサギが市内山間部を中心に多く見られることもあり、毎年安定した個体数を維持しているようです。

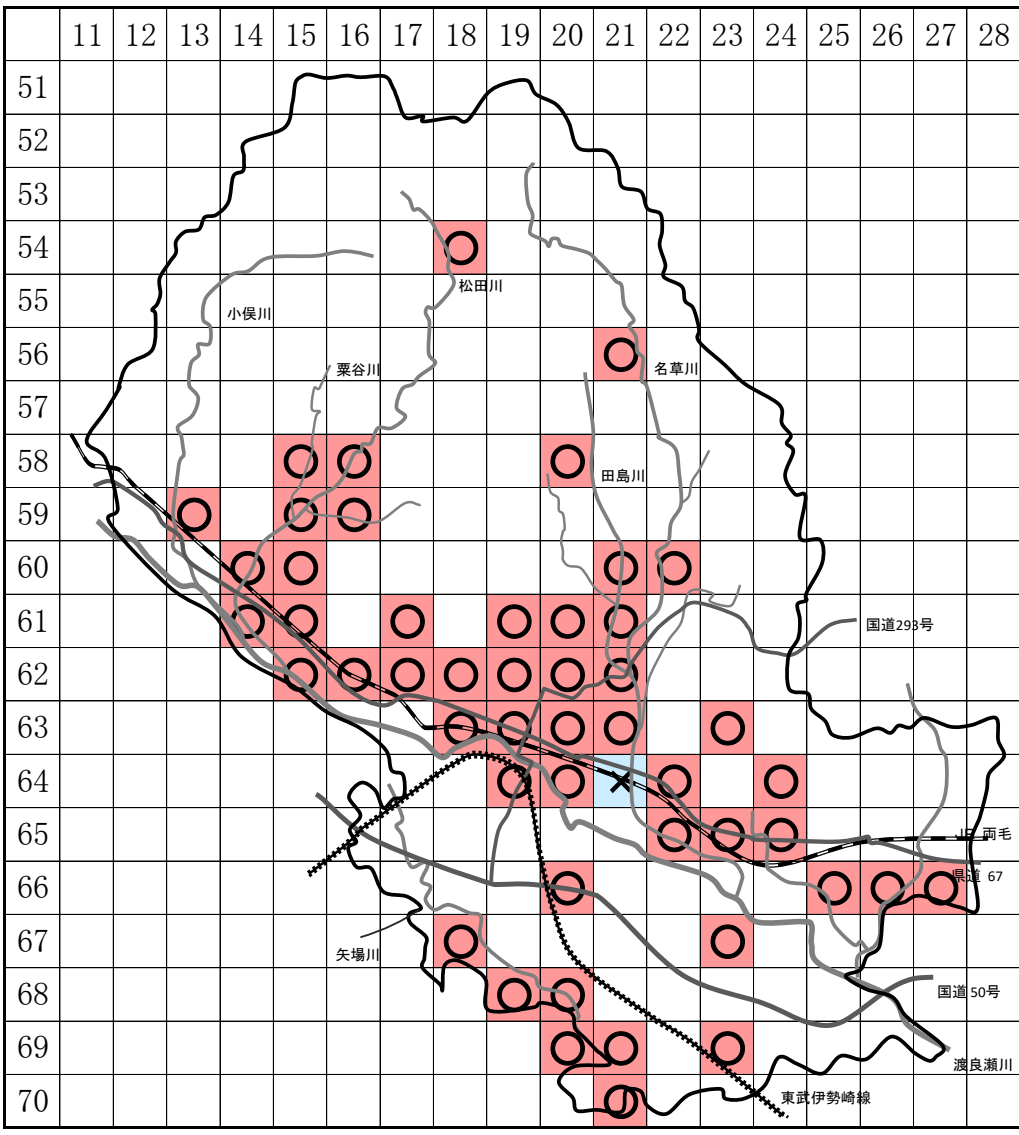
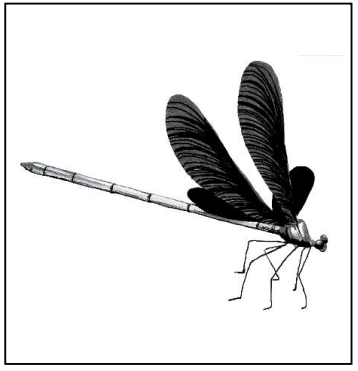
ハグロトンボ

確認数： 49 メッシュ

報告数： 50 メッシュ

2021年度 43/47 2020年度 47/53

※過年度 確認数/報告数



おおきさは約5.4～
6.8cm。細長く黒っぽ
い翅を持ったヒラヒラ
と飛ぶトンボ。多くは
河川に近い場所に生息
しており、川の近く
にある草原や林などでも
みることができる。

観察適期
5月～10月

・生き物が見つかったメッシュ ○ 印で表示

・生き物が見つからなかったメッシュ × 印で表示

調査結果

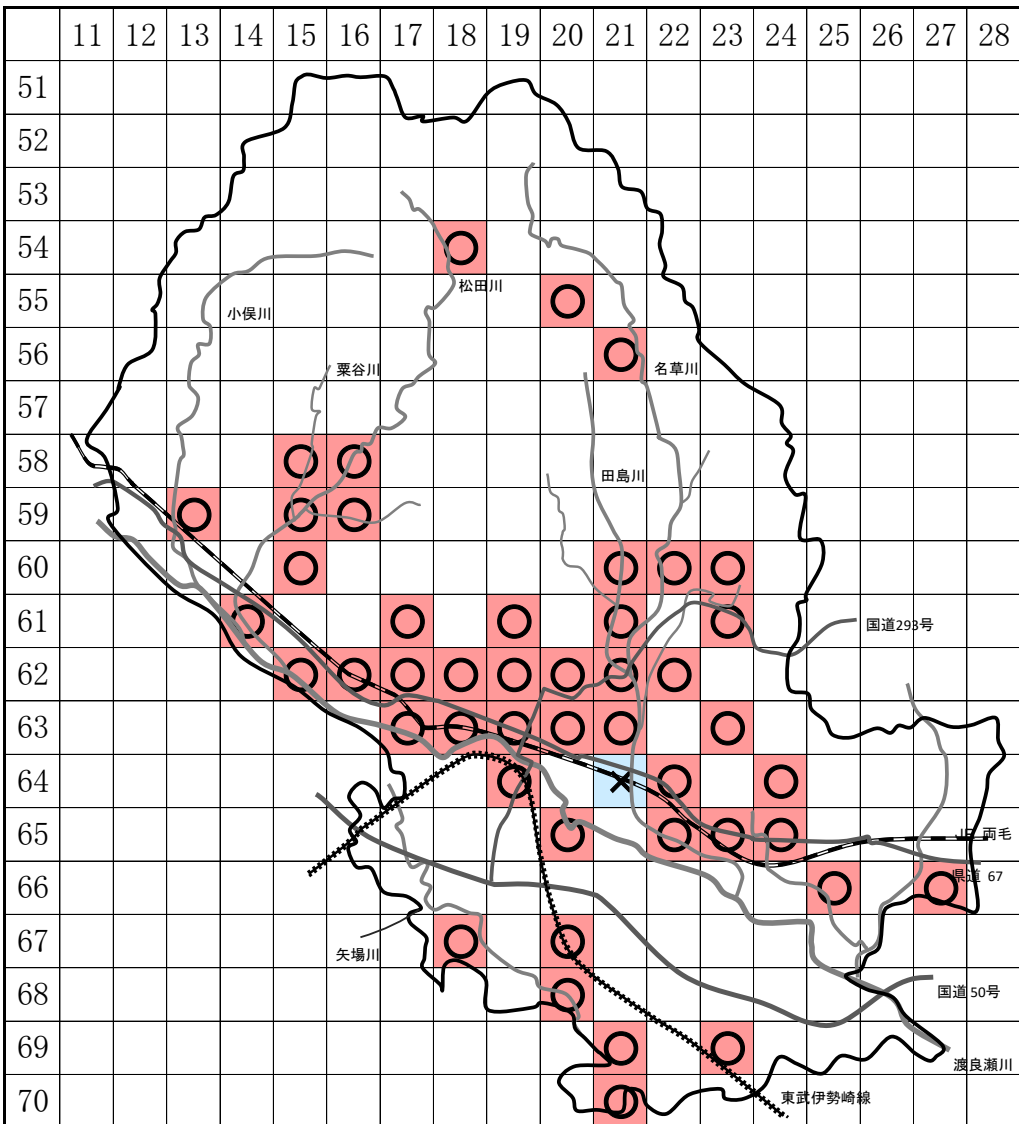
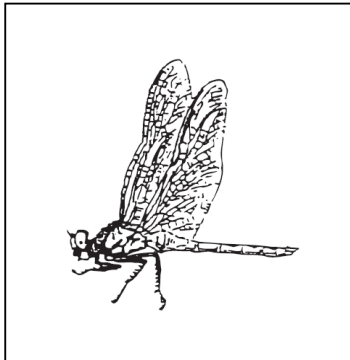
昨年同様足利市では広い範囲に生息していることがわかりました。特に河南地域にも引き続きいることがわかりました。おもに河川の下流域に住み、やや汚染された水域にもいるようですが、東京都や神奈川県では絶滅危惧種となっています。

黒いとんぼで動作が緩慢で見つけやすく、水質の変化にも敏感に反応することから環境指標として適した昆虫であると言えます。

アキアカネ

確認数： 46 メッシュ
 報告数： 47 メッシュ
 2021年度 43/43 2020年度 47/51

※過年度 確認数/報告数



初夏に羽化した成虫は山へと移動し、秋に平地に降りてくる。移動をするトンボとしてよく知られる。何百匹のトンボが飛び交い、電線に止まっているアキアカネの行列を見たのはもはや過去のことになってしまった。

観察適期
7月～10月

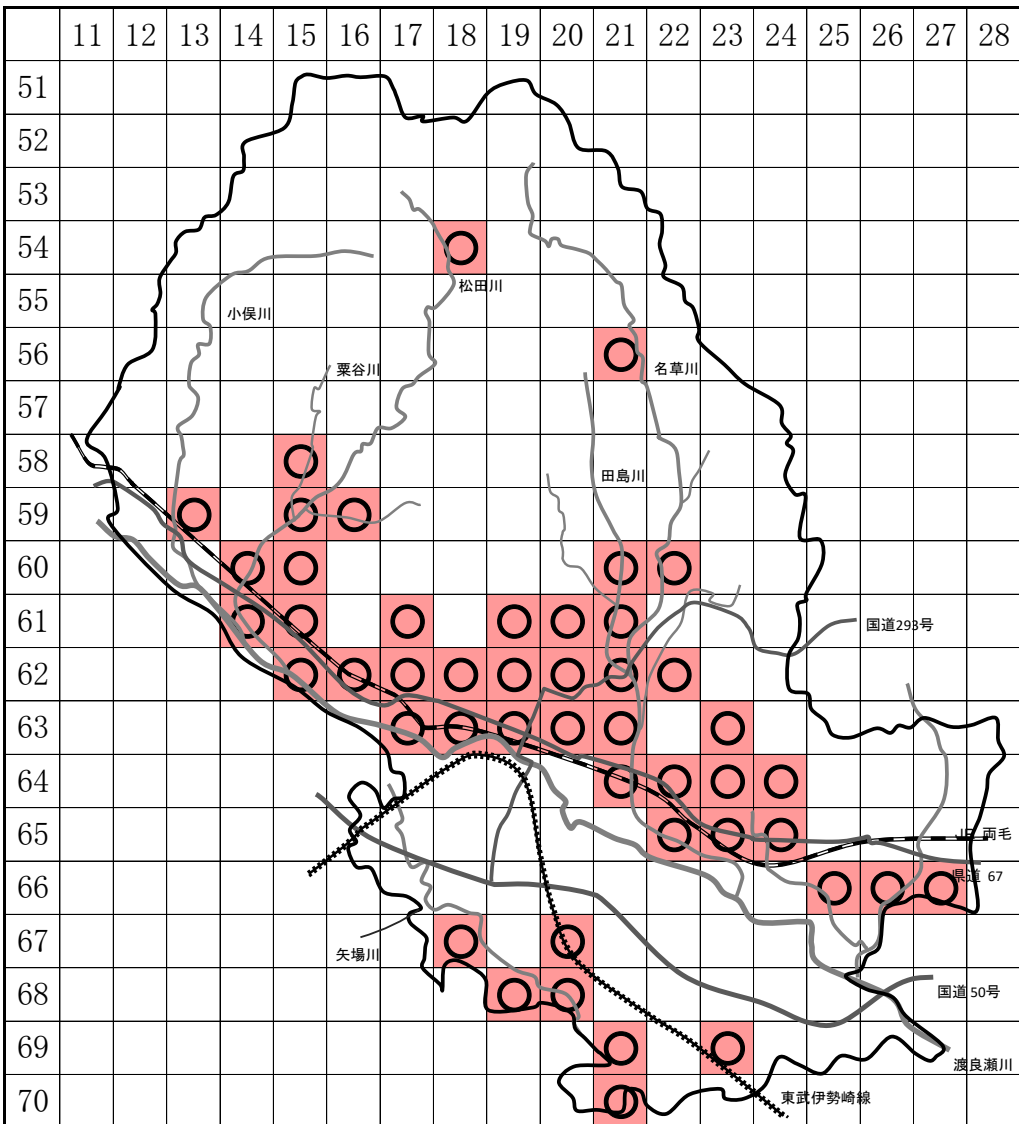
- ・生き物が見つかったメッシュ ○ 印で表示
- ・生き物が見つからなかったメッシュ × 印で表示

調査結果

昨年同様市内各地で確認されましたが様々な理由により確実に減少していることは間違いありません。なかでも減少に追い打ちをかけたのが平成5年頃（1993年）から使用されている、昆虫の神経伝達を阻害することで殺虫活性を発現するという、ネオニコチノイド系殺虫剤（人間を含めた脊椎動物に対する毒性は低いとされている）の影響がアカトンボ類では顕著であることが既に指摘されています。それでも足利市に生息する数種のアカトンボのなかで最も多く見られるのがアキアカネです。

アブラゼミ	確認数： 47 メッシュ
	報告数： 47 メッシュ
	2021年度 49/50 2020年度 56/58

※過年度 確認数/報告数



セミの中^{なか}では、最^ももふつ^ふの種^{しゆ}類^{るい}である。からだいろくろ、はねちやいろはら、しよこな粉^{こな}のようなものがついてる。

7月^{がつ}から8月^{がつ}にかけておほく発生^{はつせい}し、ギーギーと大きな音^{おと}を出す。ヌケガラとい^いうと、このセミの物^{もの}を見^みかけることが多い。

かんさつてきき
観察適期
7月^{がつ}～8月^{がつ}

- ・生き物が見つかったメッシュ ○ 印で表示
- ・生き物が見つからなかったメッシュ × 印で表示

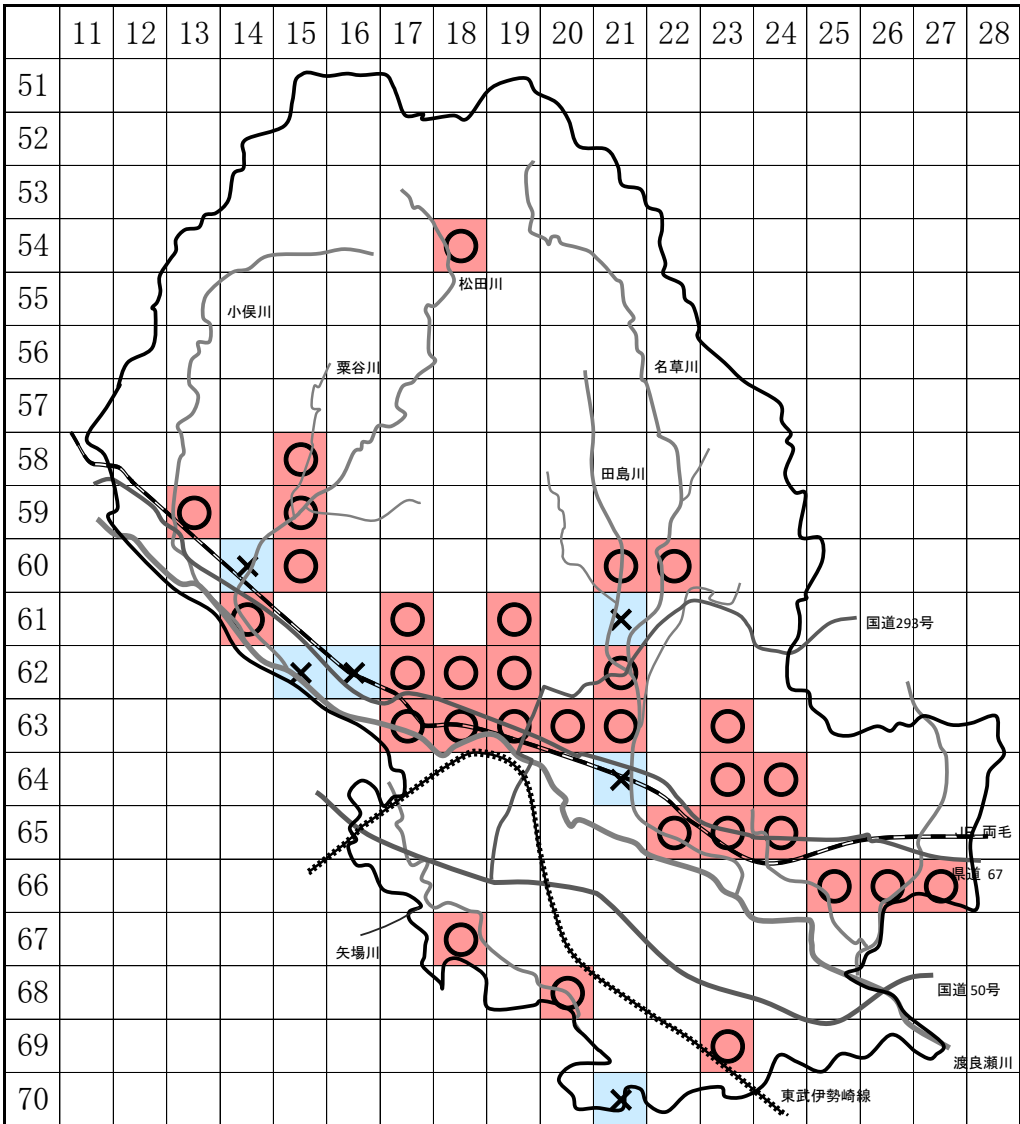
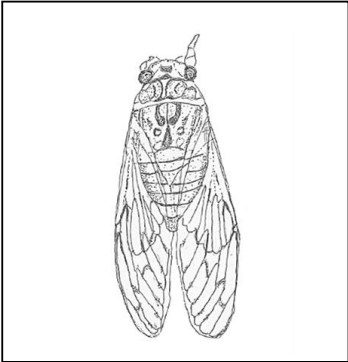
調査結果

これまで同^{どう}様^{よう}市^し内^{ない}各^{かく}地^ちで確^{かく}認^{にん}されま^さした。足^{あし}利^か市^{がし}では最^もも数^{かず}が最^{おほ}いセミで、発^{はつ}生^{せい}場^ば所^{しょ}も広^{ひろ}い範^{はん}圍^いにわたっています。特^{とく}にちよ^ちつと^つした樹^{じゆ}林^{りん}地^ちでも見^みられ都^と会^{かい}でも最^もも多^{おほ}いセミです。

足^{あし}利^か市^{がし}の分^{ぶん}布^ぷ状^{じやう}況^{きやう}は山^{さん}間^{かん}部^ぶでは少^{すく}ないよう^{よう}で、このこ^こは他^{ほか}のセミには好^{こう}適^{てき}でもアブラゼミにとつて好^{こう}適^{てき}な環^{かん}境^{きやう}ではないこ^こを意^い味^みして^{して}いるよう^{よう}です。

ヒ グ ラ シ	確 認 数 : 31 メッシュ
	報 告 数 : 37 メッシュ
	2021年度 32/40 2020年度 39/44

※過年度 確認数/報告数



かっしょくじ くろいろ みどりいろ
 褐色地に黒色と緑色
 の斑紋があるセミ。山
 地の薄暗い林に多い
 が、住宅地の公園にも
 いる。
 おもに夕方と早朝に
 「カナカナカナカ
 ナ・・・」と哀調のあ
 る声で鳴く。夜間には
 灯火にも飛んでくる。

かんさつてきき
観察適期
 6月～9月

- ・生き物が見つかったメッシュ ○ 印で表示
- ・生き物が見つからなかったメッシュ × 印で表示

調 査 結 果

あしかがし ひろ はんい せいそく
 足利市の広い範囲に生息していることがわかりました。しかし市の中央部で未確認数が多く、ア
 ブラゼミがちょっとした樹林にもいるのに対し、ヒグラシの好むまとまった樹林が少ないことが原
 因と考えられます。都会ではヒグラシの好む環境がなくなり鳴き声を聞けなくなった場所もあるよ
 うです。昨年同様喜ばしいことに河南地域でも結構生息していることがわかりました。昨年度と同
 様の結果でヒグラシにとっての環境が維持されていることがわかりました。

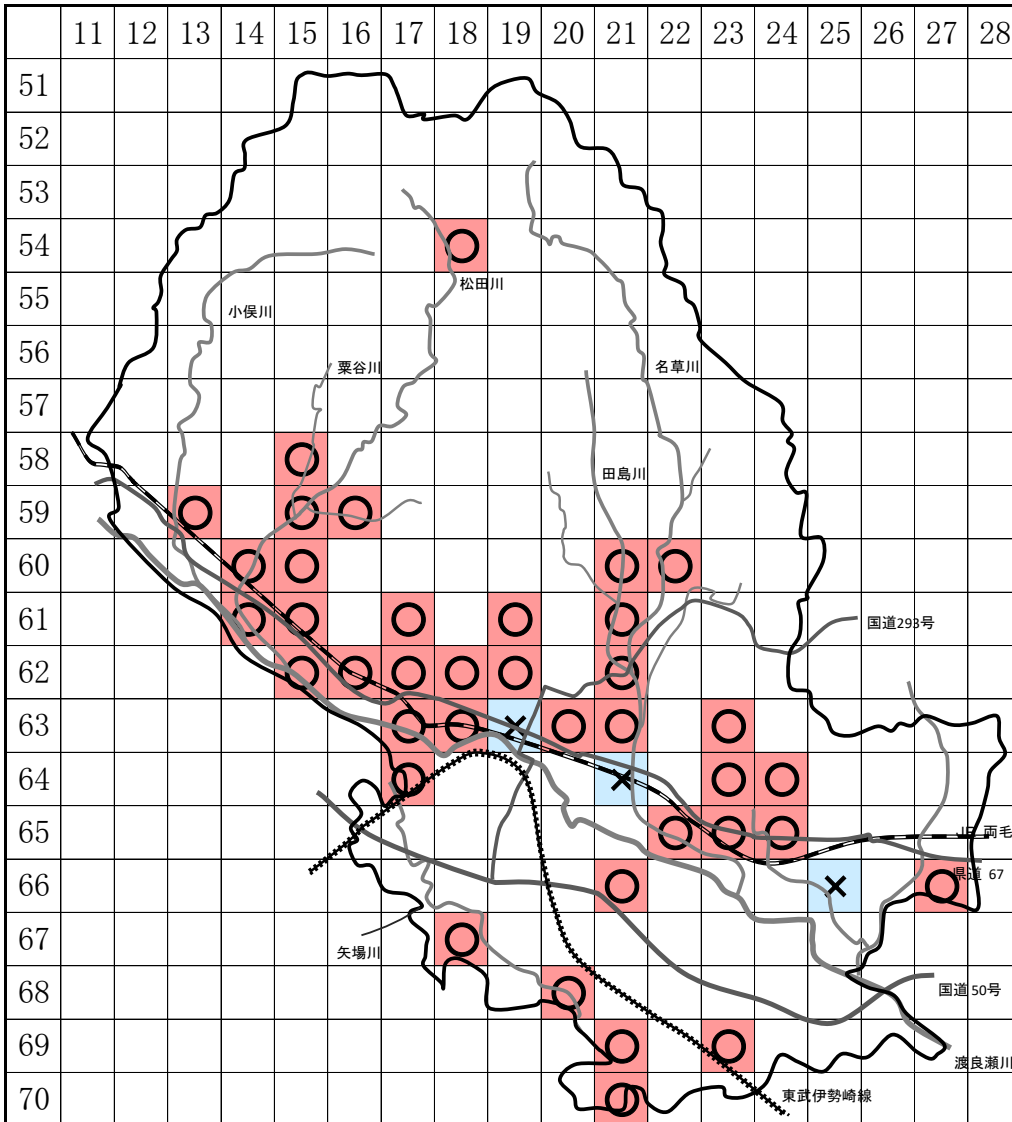
オオカマキリ

確認数： 38 メッシュ

報告数： 41 メッシュ

2021年度 39/41 2020年度 42/44

※過年度 確認数/報告数



体長は8cmほどあり、カマキリの中で一番大きい。色は緑色で、カマのような前足で生きている虫をとらえて食べる。

【見分け方】

オオカマキリ
たまご(卵塊)

チョウセン
カマキリ



丸みがある

ほそながい

うしろ翅



黒い部分が多い

透明

カマの付け根
きいろ
黄色

しほいろ
朱色

観察適期 8月～10月

・生き物が見つかったメッシュ ○ 印で表示

・生き物が見つからなかったメッシュ × 印で表示

調査結果

昨年とほぼ同じメッシュ数で確認されました。市内各地に広く生息していることが確認されました。確認数が徐々に減っている傾向であることから数は減っているものと思われます。大きなカマキリは「オオカマキリ」と「チョウセンカマキリ」の2種いて慣れないと区別は難しいのですが、区別点がわかれば意外と簡単に見分けられます。足利市で見られるのはオオカマキリが殆どです。チョウセンカマキリは開けた草地を好むようです。

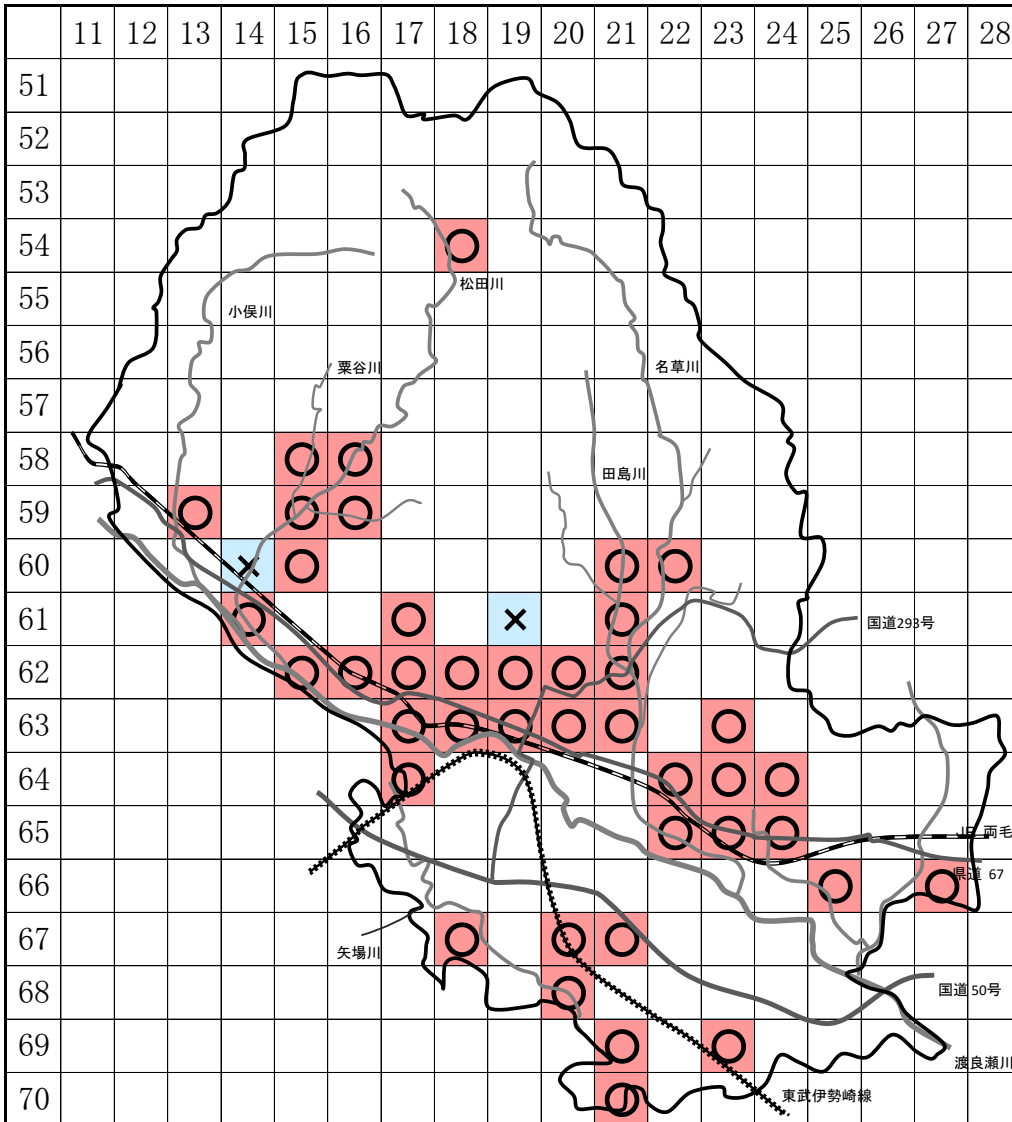
エンマコオロギ

確認数： 41 メッシュ

報告数： 43 メッシュ

2021年度 34/40 2020年度 43/46

※過年度 確認数/報告数



からだは^{ちやかつしよく}茶褐色で2
～3cmの^{おお}大きさであ
る。4月ごろ^{がつ}出て^で数回
^{だっぴ}脱皮をくりかえして8
月ごろ^{がつ}成虫になる。

ほかにミツカドコオ
ロギ・オカメコオロギ
などがいる。

かんさつてき
観察適期
8月～10月

・生き物が見つかったメッシュ ○ 印で表示

・生き物が見つからなかったメッシュ × 印で表示

調査結果

昨年よりも確認メッシュ数は増えこれまでの水準に戻りました。これまで同様市内各地に広く生息していることが確認されました。原っぱや畑、道ばたなどに広く生息し足利市では最も普通に見られるコオロギの一つです。これまで同様安定した個体数を維持しているものと思われます。

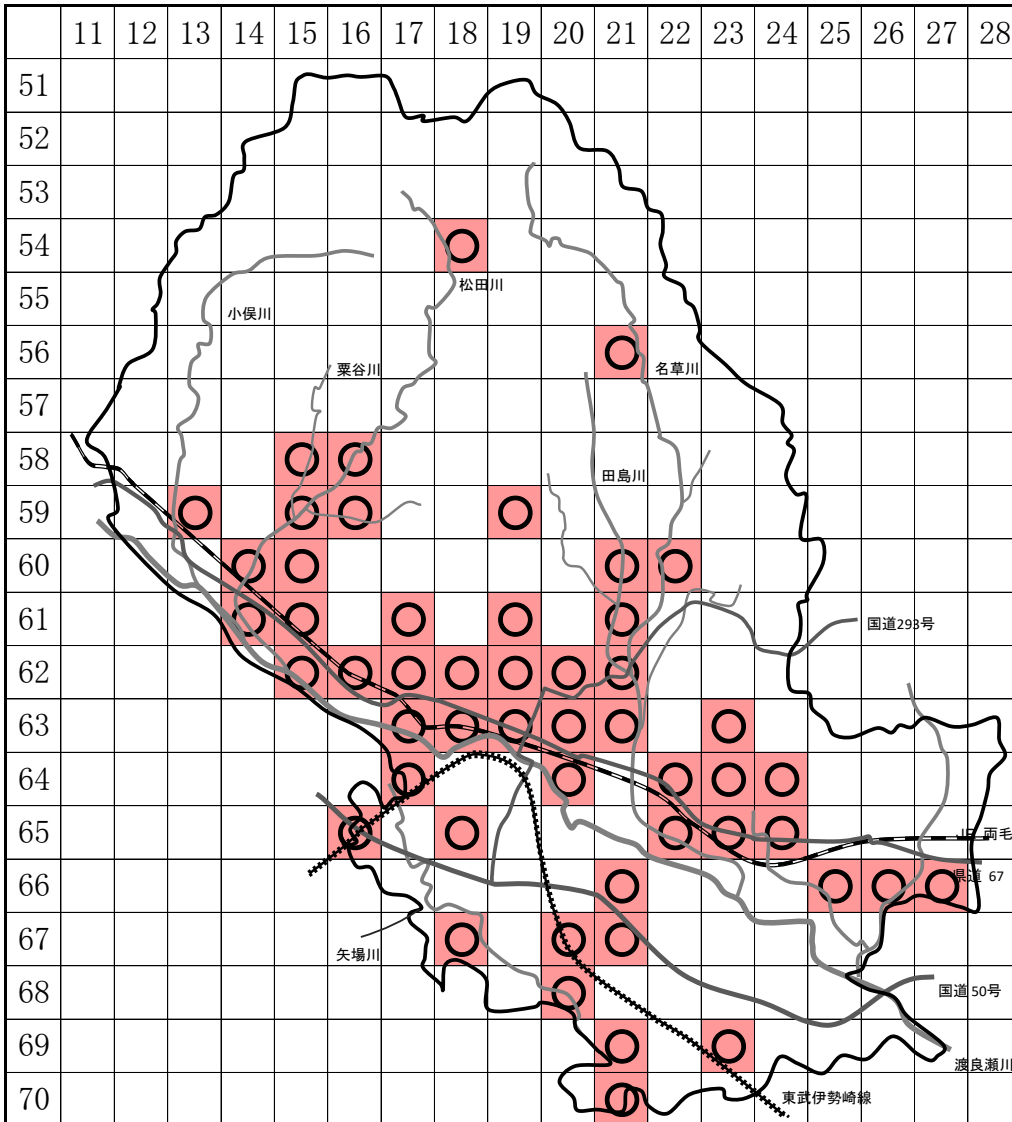
ナナホシテントウ

確認数： 51 メッシュ

報告数： 51 メッシュ

2021年度 47/47 2020年度 49/51

※過年度 確認数/報告数



おお
大きさは1cmぐらい
で、あかいろなか
に7つ
はんもん
の斑紋がある。
ようちゆうせいちゆう
幼虫・成虫は、アブ
ラムシを食べる。
ほかにナミテントウ・アカボシテントウなど多くの種類がある。

かんさつてき
観察適期
がつがつ
4月～10月

・生き物が見つかったメッシュ ○ 印で表示

・生き物が見つからなかったメッシュ × 印で表示

調査結果

さくねんおな
昨年とほぼ同じメッシュ数で報告されたメッシュすべてで確認されました。ひあたりのよいくさち、
はたちしゅうへんにわ
畑地の周辺、庭などいろいろなところでよく見られます。ねん
年に2回発生してせいちゆうふゆこ
成虫で冬を越し、夏には夏眠をします。しよとう
初冬でも暖かい日はよく見ることができます。まいとしあんてい
毎年安定した個体数を維持しているものと思われます。